

## 山のトイレ問題～斜里岳の現状～

吉田 敏則（斜里岳「清岳荘」管理人）

### 1. 登山者数及び見学者数

道東の秀峰、斜里岳はご存知の通り日本百名山ブームとともに登山者数が増加、シーズン中は 9,000 人近く入山している。斜里岳の場合、登山者名簿から分析すると登山者数の 6 割は道外からの入り込みであり、百名山狙いで羅臼岳から当山、さらに雌阿寒岳へと流れているのがパターン化している(あるいはこの逆)。

ここ数年はひと頃のブームが去って 8,000 人前後で推移していたが、去年は前年を上回る 8,786 人の登山者を数えている(詳細は別表の通り)。増加の要因として、知床世界自然遺産の登録による影響が少なからずあるものと思われる。

また、清岳荘が新しく建て替えられ、見学者の数も増えた。旧清岳荘から約 1km 町寄りに建設された新清岳荘は西尾根の末端部(標高 680m)にあり、斜里平野とオホーツク海を見下ろす展望のよい場所にある。このため新しい建物と眺望の良さ楽しもうという見学者は約 1,300 人を数えた。登山者を加えるとシーズン中、1 万人を超える人たちが登山口を訪れている。

### 2. トイレの状況

斜里岳には登山口となる清岳荘内にトイレがあるだけである。登山者の多くは登山前に施設内のトイレを利用し入山していくが、山中で用を済ませる人もやはり多い。休憩場所となる下二股、上二股、馬の背、頂上付近、熊見峠などにはヤブの中には踏み跡が続き、跡を追うと決まってティッシュペーパーがある。夏の暑い盛りはトイレ臭もする。ひどい時には人が歩くコース上にそのままの状態ですべての「現物」を落としていく輩もいる。連絡を受けたりパトロールで入山する度に現物を回収するが、去年は下二股、熊見峠付近で 3 度回収している。

### 3. 施設内のトイレ

昨年新しく建て替えられた清岳荘は清里町が維持管理(2007 年から町観光協会に移管予定)し、水洗式トイレを完備した鉄筋コンクリート造 2 階建ての凡そ山小屋らしくないものである。

トイレのシステムは「排水再利用処理装置(設置業者による名称)」あるいは「循環式活水再利用処理槽(町による名称)」といい、屋外に大型の浄化槽が設置され発電機により電力を供給、稼働させている。また、浄化槽内に沈めた多量の貝殻・木炭で汚物、汚水等を分解処理、さらに水については浄化槽内できれいにした後、循環再利用している。

ペーパー類は備え付けのものを使用しそれ以外の使用は不可。分解処理に影響が出るためトイレ用洗剤は一切使用できず、便器等の清掃は水にて行っている。

発電機は保守点検時以外には24時間停止することなく動いており、トイレはシーズン中常時使用可能な状態にある。ただし、管理人が作業等で留守にする時間帯は、小屋に施錠するためトイレは利用できない。

#### 4.トイレの処理能力及び維持管理

浄化槽内に汚物が基準値以上溜まると警報音が鳴り、溜まりすぎると汲み取らなければならない。町の当初予想ではシーズン中1回程度汲み取れば・・・とみていたが、意に反して予想より利用者が多く、シーズンインから2カ月程度でオーバーフローとなった。さらに9月にも同じ状態となり、6月から10月まで計2回、汲み取りがなされた。

発電機が停止するとトイレの使用はできなくなるが、週一度、燃料補給時に業者による発電機やシステム点検を行っており、今のところ故障等の問題は起きていない。

#### 5.トイレ利用協力金

トイレを利用する場合、利用者から協力金を頂いている。当初、町は自由な利用を考えていたようであるが、「旧山小屋よりかなり維持費がかかるので幾らかでも頂いた方がいいのではないか」・・・との声が出て、6月半ば位から“協力金”という形で利用料を頂くことにした。ただし協力金については、町はタッチしておらず、清里町観光協会が独自に行っている。営業終了時の10月10日までに集まった協力金は合計25万6,770円だった。

なお、山小屋宿泊者と駐車場での車中泊者については、宿泊の間だけ自由にトイレを利用できるが、下山後のトイレ利用は協力金をお願いしている。

#### <徴収方法>

利用者全員から等しく協力金を頂くにはトイレ前に人員を張り付ける必要があるため難しく、強制徴収ではなくあくまでもお願いとして頂いている。当初は“お願い”の張り紙を掲示、額についても“お気持ちでけっこうです”とトイレ前に徴集箱を設置した。ところが「払っても払わなくてもいい」というアバウトさが災い、そ知らぬ顔で利用する人がかなりいた。こちらから声を掛ければ入れていくが、声をかけても「後で・・・」「下山してから・・・」などという人もいた。このため途中から「トイレは有料」と張り紙を書き直すなど徴集箱に入れる人が多くなった。

#### <協力金についての利用者の反応>

これはマチマチである。登山者の多い山は全国どこでもトイレ問題が悩みの種であるが、これを十分理解している人は多い。斜里岳でも「トイレ問題は深刻ですよ」と積極的に協力金を置いていく。一方でシブシブ徴集箱にコインを入れる人、張り紙を一瞥しただけでトイレに消える人、有料の張り紙を見て踵を返す人(どこで用を足すのだろう)といろいろである。

登山者以外の人(一般の観光客)はまた違った反応を見せる。山のトイレ問題をあまり理解

している人はそう多くはなく、「有料ですか?」と怪訝な表情をする人は少なくない。そんな人には深刻な山のトイレ問題を説明すると、ある程度納得してくれる。

#### 6. 今後の取り組み

斜里岳における現況は以上の通りである。

協力金については、はっきりとトイレは一回の利用につき〇〇円と打ち出した方がいいのか、今までのように「お気持ち」のままとした方がいいのか。また、等しく頂くために利用者全員から利用料として徴収した方がいいのかまだまだ検討の余地はありそうである。

## 平成 17 年 月別登山者及び施設見学者

(2005.6/14~10/10 迄)

| 月   | 項目  | 登山者数<br>(人) | 入込み車両数<br>(台) | 施設見学者数 |       |       |
|-----|-----|-------------|---------------|--------|-------|-------|
|     |     |             |               | 大人(人)  | 子供(人) | 合計(人) |
| 6月  | 17年 | 665         | 322           | 198    | 10    | 208   |
|     | 16年 | 851         | 318           | 0      | 0     | 0     |
|     | 増減  | -186        | +4            |        |       |       |
| 7月  | 17年 | 3,534       | 1,057         | 277    | 33    | 310   |
|     | 16年 | 3,217       | 937           | 0      | 0     | 0     |
|     | 増減  | +317        | +120          |        |       |       |
| 8月  | 17年 | 2,606       | 831           | 360    | 77    | 437   |
|     | 16年 | 2,169       | 791           | 0      | 0     | 0     |
|     | 増減  | +437        | +40           |        |       |       |
| 9月  | 17年 | 1,777       | 608           | 217    | 37    | 254   |
|     | 16年 | 1,625       | 519           | 0      | 0     | 0     |
|     | 増減  | +152        | +89           |        |       |       |
| 10月 | 17年 | 204         | 97            | 63     | 5     | 68    |
|     | 16年 | 265         | 76            | 0      | 0     | 0     |
|     | 増減  | -61         | +21           |        |       |       |
| 合計  | 17年 | 8,786       | 2,915         | 1,115  | 162   | 1,277 |
|     | 16年 | 8,127       | 2,641         | 0      | 0     | 0     |
|     | 増減  | +659        | +274          |        |       |       |